

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	古瀬傳蔵の生き方に学び大桑村の農業・食を考える事業
事業主体 (連絡先)	古瀬傳蔵記念事業実行委員会 (0264-55-1020)
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,043,477 円 (うち支援金 : 782,000 円)

事業内容

古瀬傳蔵の取組(100年雑誌「現代農業」「家の光」の編集に創刊当時から関わり、農民や農村の窮状を訴え精力的に活動した。)や古瀬が大桑村出身であることを、村内外の人に伝える。

今日的な農業を取り巻く問題について地域で考えていくきっかけとなる企画展・講演会を実施し、講演内容企画展資料をまとめた冊子を作成・配布する。

- ・企画展 10月20日~24日、11月23日~28日
来場者 175人
- ・講演会 10月23日、11月23日 総計 125人
- ・小冊子 500冊発行・関係団体個人に配布 3月下旬
希望者には、継続的に来年度以降も配布

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①コロナ禍ではあったが、企画展入場者数が目標の87%あり1回目の講演会と相まって、古瀬傳蔵の取組について知ってもらえる事が出来た。その取組について目標を大きく上回る100%の肯定的意見があった。
- ②講演会で、日本各地の中山間地域における先進的な集団営農の取組を知り、大桑村(木曽地域)でも、そのような方向を模索していこうという気運が盛り上がってきた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

記念冊子を資料館等に置いて、希望者に無料配布することで、古瀬傳蔵の取組や大桑村出身であることを村内外に継続的に広報していく。このことが、古瀬の取組や村出身であるという事を地域住民が継続的に認知し続けそのことを誇りとし続ける事が出来る。

新年度創設される大桑村立図書館の活動と連携して、農業の後継者不足・遊休農地等の中山間地域の問題についての学習する際、記念冊子を学習材として継続的に利用していく。

小中学校にも記念冊子を配布し、次世代を担う子供達にも古瀬を認知し、地域の課題についても考える学習材として継続的に活用していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【講演会の様子】

【目標・ねらい】

- ①古瀬傳蔵の取組を地域住民に知ってもらおう。
- ②中山間地域での集落営農について学ぶ。
- ③大桑村の農業の今後について考える気運を盛り上げる。

※自己評価【A】

【理由】

- ・企画展や講演会参加者のアンケートに古瀬傳蔵の取組や大桑村出身であることを初めて知って誇りに思う人が多数いた。
- ・講演会の内容を冊子にまとめ記録として残し、今後学習会などの資料として活用できること。